

ミズゴケ湿原の微小環境 (“Fen-Bog” Gradient) での有殻アメーバ *Hyalosphenia papilio*
と *Nebela tincta* の食性の特徴と、 ^{13}C と ^{15}N を用いた同位体分析

Vincent E.J. JASSEY^{1*}, Satoshi SHIMANO^{2*}, Christine DUPUY³,
Marie-Laure TOUSSAINT¹ and Daniel GILBERT¹

(¹Lab. Chrono-Environ., UMR CNRS 6249, UFR Sci., Tech. Gest. Ind., Univ. Franche-Comté,
²Environ. Educ. Ctr., Miyagi Univ. Educ., ³Lab. Littoral Environ. Soc., UMR 6250, Univ. La Rochelle)

*共同筆頭著者

【要旨】 フランスのジュラ山脈にあるミズゴケ湿原の微小環境，“Fen”から“Bog”的移行帶で、有殻アメーバ *Hyalosphenia papilio* と *Nebela tincta* の個体群動態と、食性を調査した。光学顕微鏡下で観察された内容物のうち、*N. tincta* では、糸状菌、微小藻類そして、シアノバクテリアが優占し、*H. papilio* では、纖毛虫と微小藻類が順に優占していた。 ^{13}C と ^{15}N を用いた同位体分析では、食物網のなかで両種はことなる栄養段階にあることが示唆され、異なる捕食戦略をもちいていると考えられた。